



2025年1月30日

各位

会社名：AI フュージョンキャピタルグループ株式会社
(コード:254A 東証スタンダード市場)
代表者名：代表取締役社長 澤田 大輔
問合せ先：財務経理部長 西田 賢一郎
(TEL: 03-6261-9511)

子会社の設立及び新たな事業（暗号資産投資事業）の開始に関するお知らせ

当社は、本日開催の取締役会において、子会社を設立し、新たな事業（暗号資産投資事業）を開始することを決議しましたので、下記の通りお知らせいたします。

記

1. 子会社の設立及び新たな事業（暗号資産投資事業）を開始する背景

近年、日本の法定通貨である円の世界における主軸通貨としての位置付けが弱まってきている一方で、ビットコインをはじめとする暗号資産はその存在感を強めてきております。暗号資産の価値は周期的に変動するものの、中長期では着実に上昇してきております。例えば、暗号資産の中で最も流動性が高くセキュリティの堅牢性も高いビットコインは、大きな価格の上昇と下落を繰り返しながらも、2009年10月に初めて価格が提示された1ビットコイン=約0.07円から、2025年1月29日の約1,500万円に、約2億倍の上昇となっており、10年前の2015年の約3万円と比較しても約500倍となっております。

当社では、暗号資産には以下に記載するオルタナティブ金融資産としての特性に加えて、当社が軸に据えるAIと並びデジタル社会の二大テクノロジーの双璧であるブロックチェーン技術としての優位性を有していると考えております。暗号資産による「オンライン支払い」「ゲーム内課金」「分散型金融の提供」など、暗号資産のブロックチェーン技術を利用したサービスの提供は今後も中長期で拡大が予想され、それとともに暗号資産の存在感も更に向上していくと考えております。

また、AIと暗号資産は、分散型アプリケーションの発展、データの信頼性と透明性の強化、AIとスマートコントラクトの融合等で相互補完をしてきました。今後も、AIによるブロックチェーンのセキュリティ強化、スマートコントラクトの高度化と適応性、分散型AIシステムの発展、トークン化されたAIモデルとデータの流通、AIによるブロックチェーンガバナンスの改善など、さまざまな領域において補完しあうことで革新的な変化を引き起す可能性を有しており、切り離すことの出来ない密接な関係となっております。

2024年10月29日付「中期経営計画（AI革命1.0）策定に関するお知らせ」に記載の通り、当



社は「AI を軸に、自己投資事業・ファンド事業・PIPEs 事業・投資銀行事業からなる 4 つの事業ドメインをコア領域と定め、シナジー効果を発揮しながら、それぞれが独立した事業として当社グループの利益成長をドライブする」ことを目指しております。当社は、「当社が考える暗号資産投資のリスク」に記載の通りのリスクはあるものの、「当社が考える暗号資産投資の優位性」に記載の通り金融資産+テクノロジーとしての中長期での暗号資産の優位性を見据え、また、上記の通り、当社が軸として掲げる AI と暗号資産との密接な関係を鑑み、子会社の設立及び新たな事業（暗号資産投資事業）の開始を決議いたしました。当社は、市場環境を見ながら中長期的な視点で暗号資産を継続的に蓄積し、株主価値の最大化に向けた取り組みを進めてまいります。

また、将来的には、令和 6 年 LPS 法（投資事業有限責任組合契約に関する法律）の改正で LPS が実施可能な事業として追加された暗号資産を投資対象としたファンドの組成も視野に入れるほか、2024 年 12 月に当社の連結子会社となりました株式会社ショーケース（東証スタンダード、証券コード 3909）の IT 分野での技術力を活かした同社との協業により、暗号資産を利用したビジネスの効率化を図るツールやサービスの提供、企業や製品の認証をデジタル化するサービスの提供、NFT（非代替性トークン）の活用など、暗号資産関連のサービス提供も視野に入れるなど、当社がコア領域と定める 4 つの事業ドメインとの親和性も高いと考えております。

～当社が考える暗号資産投資の優位性～

(1) 分散投資とリスクヘッジの効果

暗号資産は、株式や債券・通貨等の伝統的な金融資産と異なる価格変動の特性を持ち、ポートフォリオに加えることで他の資産クラスとの相関関係が低く、分散投資効果を高めることが可能になるオルタナティブ投資の 1 つです。特に、伝統的な市場が不安定なときに、暗号資産がリスクヘッジの手段として有効になり得ると当社では考えています。

(2) 成長ポテンシャル

暗号資産市場は、依然として長期的な成長の余地が大きいと当社では考えています。ブロックチェーン技術や分散型金融（DeFi）、NFT（非代替性トークン）など、暗号資産を取り巻く新しい技術やサービスが急速に進化しており、その発展によって暗号資産全体の価値が増大することも期待できると当社では考えています。

(3) インフレ対策としての有効性

暗号資産、特にビットコインは「デジタルゴールド」とも呼ばれ、インフレ対策として利用可能であると当社では考えています。ビットコインは最大供給量が 2,100 万枚に制限されており、貨幣供給量を増加させることができないため、インフレに対する防御的な特性を持つと考えています。これにより、法定通貨の価値が減少する局面で、暗号資産は資産の保全手段として有効であると考えています。

(4) 金融のデジタル化と普及



金融のデジタル化が進む中、暗号資産はその重要な要素となりつつあります。特に、分散型金融（DeFi）の台頭により、銀行を通さずに資産運用や融資、借入れなどが可能になるなど、金融サービスの形態が大きく変化しています。このデジタル化の波に乗ることができる暗号資産は、今後ますますその存在感を高める可能性があると考えられています。

(5) 規制環境の整備と成熟

暗号資産に関する規制が徐々に整備されることで、市場の透明性と安定性が向上しています。規制が整備されることで、投資家の信頼が高まり、大手機関投資家や企業が参入しやすくなるため、暗号資産市場の成熟が進むと期待されます。このような環境整備が暗号資産への中長期的な投資をさらに魅力的にする要因であると考えられています。

(6) 取引コストと効率の向上

暗号資産は、従来の銀行や金融機関を介さずに直接取引を行えるため、国際送金や金融取引におけるコストや時間を大幅に削減可能です。この効率性は、特にグローバルな取引において中長期的に有利に働き、暗号資産の需要を高める要因になると当社では考えています。

(7) 市場の流動性とアクセス性の向上

暗号資産市場は24時間取引が可能であり、またグローバルにアクセス可能なため、投資家が柔軟に売買できる流動性の高い市場となっています。このことは、長期的なリターンを追求する上では重要な要素であると考えられています。

(8) 技術革新と新しい投資機会

ブロックチェーン技術の革新により、暗号資産には新しい投資機会が続々と登場しています。NFT（非代替性トークン）や、スマートコントラクトを利用した分散型金融（DeFi）、さらにはWeb3.0の発展に伴い、暗号資産が提供する新しい価値や市場が生まれています。これらは、暗号資産への中長期的な投資をさらに魅力的にする要因であると考えられています。

～当社が考える暗号資産投資のリスク～

(1) 価格のボラティリティ

暗号資産の価格は非常に変動しやすく、短期間で大きな価格変動が起こることがあるため、投資した資産の価値が急激に上がったたり、下がったりするリスクがあると当社では考えています。

(2) セキュリティリスク

ハッキングや不正アクセス等による暗号資産の盗難リスクがあると当社では考えています。

(3) 規制リスク

暗号資産に関する規制が不安定な場合、将来にわたって政府の規制強化や禁止措置が取られる可能性があります。これが価格や取引の流動性に影響を及ぼすこともあると考えられています。



ます。

(4) 技術的リスク

暗号資産はブロックチェーン技術に基づいていますが、もしその技術に脆弱性や欠陥が見つかり、資産の安全性や信頼性が損なわれる可能性があると考えられています。

2. 設立する子会社の概要及び事業内容

(1) 商号	ミライコイン株式会社
(2) 所在地	東京都港区六本木1丁目9番9号
(3) 代表者の役職・氏名	代表取締役 澤田大輔
(4) 事業内容	1. 暗号資産の取得及び保有 2. 暗号資産を使った資産運用 3. 暗号資産に関連又は付随する業務全般 4. 株式、通貨、外国為替、その他金融商品等に対する投資 5. 金融業 6. 投資助言・代理業 7. 前各号に附帯又は関連する一切の事業及び投資
(5) 設立時出資金	2,000 万円
(6) 設立年月日	2025 年 1 月 30 日 (予定)
(7) 大株主及び持株比率	A I フュージョンキャピタルグループ株式会社 100.0%

3. 日程

- (1) 取締役会決議 2025 年 1 月 30 日
- (2) 会社設立 2025 年 1 月 30 日 (予定)

4. 今後の見通し

本件は、2025 年 3 月期の連結業績に与える影響は軽微なものを見込んでおりますが、以降、市場環境を見ながら中長期的な視点で暗号資産を継続的に蓄積し、中長期的な暗号資産の価値の増大を通じた当社グループの業績向上に資するものと考えており、株主価値の最大化に向けた取り組みを進めてまいります。今後開示すべき事項が生じた場合には速やかに開示いたします。

以上